

教科等研究会（小学校家庭部会） 平成28年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

くらしをみつめ、家族の一員としてよりよい生活を創り出す児童の育成
～児童が達成感をもち、家庭での実践につながる授業づくり～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
5/26	1 1 人	嘉島 東小 学校	8/17	嘉島 東小 学校	事前 研究会	12/3	嘉島 東小 学校	西田丈輝 教諭	1/18	広安 小学 校	石田規子 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

①研究テーマについて

子どもたちを取り巻く社会環境は、大きく変化している。物質的には豊かで便利になっている反面、少子高齢化や核家族化、家庭の教育力低下などの状況の中で、子どもたちの生活体験や人との関わりは少なくなっている。と同時に、衣食住が軽視される傾向にある。そこで家庭生活をよりよくしようという心情や態度を育むことが大切である。

研究テーマの「くらしをみつめ」とは、自分自身や家族、周りの人々との関わりに目を向け、課題に気づくことである。「よりよい生活を創り出す」とは、家族の一員としての自覚をもち、身近な人々と協力して生活していこうとする態度である。家庭生活を大切に、学んだことや身につけたことを生かして実践していこうとすることが重要である。

②研究授業

◇題材名 5年「家族とほっとタイム」 授業者 広安小学校 石田 規子 教諭

本題材は、家族とのふれあいや団らんに関心をもち、楽しく工夫したり、家族とのふれあいや団らんの大切さを考えたりすることをねらいとしている。家族とのふれあいの時間をとり、自分ができることでもてなし、つながりを深めることができる題材である。本時は、家族との団らんを楽しくすることについて考えたり、工夫したりして計画を立て、家庭での実践へつなぐ学習だった。児童それぞれの家庭状況は異なるが、「家族が喜ぶのは？」をキーワードにして、家族のことを考えて団らん計画を立てていた。グループで自分が考えた計画を紹介し合い、友達からのアドバイスをもとに、自分の計画を見直す活動を行った。活発に意見交換ができていた班とあまりできていなかった班があり、教師の支援が必要だった。また、前時で、グループで友達（仮の家族として）と団らんする学習が行われていれば、児童のイメージもふくらみ、計画を立てたり、意見交換をしたりすることができたのではないかと課題もあった。支援学級在籍の児童（家族に依存することが多く学校で学んだことを家庭生活に生かすことが難しい）への支援として、学習前の家庭との連携やコースター作りをしたことが、児童の意欲を高める手立てとなった。



我が家の団らんを考える



グループで計画を紹介し合う



具体的な計画を立てる

(2) 成果と課題

- 児童の実態を把握し、授業者が児童一人ひとりのくらしを知り、配慮することで個に応じた支援や実態に即した授業実践を行うことができた。特に支援を要する児童においては、その児童が安心して学習に取り組むことができるように、家庭との連携を図りながら慎重に取り組むことができた。
- 学習過程に実験や実習を位置づけ、問題解決をする授業づくりを行うことで、自分のくらしをどのように工夫すればよいかという課題をもって、主体的に学習することができた。
- 中学校技術・家庭部会との合同研修会で授業研を行うことで、小学校の実態や家庭科学習でおさえるべきこと、それが中学校での学習でどう深められるのかなど、小中連携を図ることができた。今後も小・中の合同研修会を続けていく意義がある。
- グループ学習では、個人で気づかなかった意見に気づき、新たな考えに触れることができた。
- △他教科との関連を図ったり、GTや地域の方の活用を意識したりする題材の研究が必要だ。
- △学びが実践につながるように、実態をふまえた教材や地域素材の研究を深める必要がある。

4 実践事例

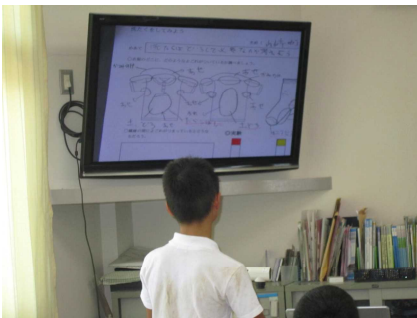
(1) 授業の概要

◇題材名 6年「暑い季節を快適に ～洗濯をしてみよう～」

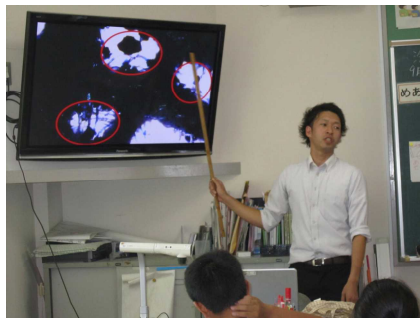
授業者 嘉島東小学校 西田 丈輝 教諭

中学校技術・家庭部会と小学校家庭部会との合同研修で研究授業を行った。本題材は、衣服の着用、快適な住まい方の学習を通して、その大切さに気づくとともに、衣服や住まいに関する基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、衣生活や住生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てることをねらいとしている。小題材「洗濯をしてみよう」では、衣服の働きを知り、気持ちよく着るために簡単な洗濯ができるようになることをねらい、洗剤や水にも着目し、環境を意識して行動する力を育てることができる題材である。

児童一人ひとりが衣服の手入れに関心をもち、洗濯の必要性がわかることをめざした授業が展開された。落ち着いた雰囲気の中で、よく考え、意欲的に自分の考えを発言していた。また、班活動では、友達と協力して活動し、実験結果をもとに、話し合い、わかったことを発表することができていた。実際に3枚のTシャツを提示することで、イメージがふくらみ、吸水性・通気性についての実験を取り入れ、実験の結果を視覚的にとらえることができるので、洗濯の必要性を考える手立てとなった。また、写真の拡大表示、実物投影機の活用、ワークシートの工夫、ICT機器などが準備されていたので、児童の学習への意欲を高め、理解を深めることができた。研究会では、系統的な中学校での学習内容についても触れ、小学校での学習が中学校で深められていることを確認できた。と同時に、小学校での取り組みの大切さも考えさせられた。



ワークシートを拡大表示



布目を顕微鏡で見た写真



班ごとに吸水実験

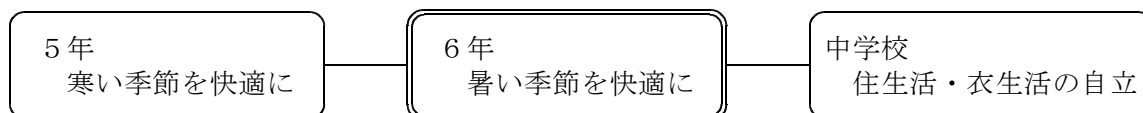
(2) 学習指導案

- 1 題材名 「洗たくをしてみよう」『暑い季節を快適に』（開隆堂）
- 2 題材について
 - (1) 本題材は、学習指導要領の内容「C 快適な衣服と住まい」の(1)「衣服の着用と手入れ」の「ア 衣服の働きが分かり、衣服に関心をもって日常着の快適な着方を工夫できること」、イ「日常着の手入れが必要であることが分かり、ボタン付けや洗濯ができること」、(2)「快適な住まい方」のイ「季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方を工夫できること」を関連させて扱う構成となっている。また、「D 身近な消費生活と環境」の(2)「環境に配慮した生活の工夫」とも関連を図っている。ここでは、衣服の着用、快適な住まい方の学習を通して、

身の回りの快適さへの関心を高め、その大切さに気づくとともに、衣服や住まいに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、衣生活や住生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てることをねらいとしている。

また、衣服の働きを知り、日常着の手入れとして衣服を大切に扱い、気持ちよく着るために簡単な洗濯ができるようになることがねらいとして挙げられている。衣服の様々な働きを知り、場面によって適切な衣服を選び、手洗い洗濯の仕方を知って実践することにより、衣服を大切にしようとする態度を育てることができる。さらに、洗剤や水にも着目し、環境を意識して行動する力を育むことができる題材である。

(2) 本題材の系統は次のとおりである。



(3) 指導にあたっては、以下の点に留意する。

- 運動会と関連させ、「靴下や体育服を洗おう」という単元のゴールを設定することで、児童が目的意識をもって学習に臨むことができるようにする。
- 吸水性、通気性の実験を取り入れることによって、見た目だけで衣服を選ぶのではなく、目的に応じた衣服の選び方や着方について考えられるようにする。
- 吸水性、通気性の実験では、結果が視覚的に分かるようにして、児童が実感を伴って理解できるようにする。
- ICT活用やワークシートの工夫により、洗濯表示や洗濯の方法などの基礎的・基本的な知識を身に付けさせるようにする。
- 実際に自分が身に着けていた衣服の汚れや種類を調べさせることにより、洗剤の使い方や洗い方について考え、実習に臨むことができるようにする。また、水や洗剤の使い方について考えることを通して、環境に配慮した実習ができるようにする。

3 題材の目標

- ◎涼しい住まい方や着方に関心をもち、快適に過ごすための工夫ができる。【関・意・態】【創・工】
- ◎涼しく住まう方法を工夫できる。【創・工】
- ◎涼しい衣服の着方や手入れに関心をもち、快適に過ごすための工夫ができる。【創・工】
- ◎洗濯の必要性が分かり、洗濯を工夫して行うことができる。【技能】【知・理】

4 題材の指導計画（8時間取り扱い） 5/8（本時）

次	時	学習内容（支援や留意点）	評価
1	1	・家の中で涼しく過ごすための着方や住まい方の工夫を話し合う。 （イラストを準備し、視覚的に分かりやすいようにする）	○涼しい住まい方や着方に関心をもち、快適な過ごし方について考えようとしている。（関意態） ○涼しい住まい方について課題を見つけ、快適な住まい方について考え、工夫している。（創工）
	2	・実験を通して、暑さへの対処の仕方についてまとめる。（3教室で、風通し・室温・湿度を比べる）	○涼しい住まい方や着方について理解している。（知理）
	3	・家庭で涼しく快適に過ごすための工夫を考え実践計画を立てる。（ポイントをおさえ実践につなぐ）	○涼しい住まい方や環境に配慮した住まい方が分かり、家庭での実践に生かそうとしている。（関意態）
2	4	・衣服の働きについて調べ、場面に応じた衣服の選択を考える。（衣服の実物を提示する） ・気持ちよく着るための手入れの仕方を話し合う。	○涼しい着方を考え、自分なりに工夫している。（創工） ○衣服の働きや着方、手入れに関心をもち、気温や季節、場面に応じた着方をしようとしている。（関意態）
3	5	・衣服のよごれについて調べる。 ・吸水実験を通して、洗濯の必要性について考えたことをまとめる。	○衣服のよごれについて関心をもち、洗濯の必要性を理解している。（知理）
	6	・洗濯で気をつけることを話し合い、手順や洗い方、取り扱い表示を調べる。	○洗濯の仕方に関心をもち、調べている。（関意態） ○手洗い洗濯の仕方について理解している。（知理）

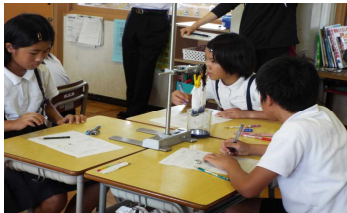
		・手洗い、洗濯機洗いの実習計画を立てる。	
7		・実習計画に沿って、手洗いや洗濯機洗いをする。	○手洗いを中心とした洗濯ができる。(技)
8		・実習のまとめをする。(洗濯のポイントを整理し、家庭での実践につなげるようにする)	○手洗いや洗濯機洗いの仕方が分かり、家庭実践に生かそうと考えている。(創工)

5 本時の学習

(1) 目標

衣服を気持ちよく着るための衣服の手入れに関心をもち、洗濯の必要性が分かる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	○主な発問 ◇指示 ・児童の反応	・指導上の留意点 * 特別支援の視点	備考
か だ い を つ か む 7 分	1 めあてを知る。 	○3枚の T シャツを持ってきました。洗濯したほうがよいか考えよう。 ○3枚目の T シャツは、洗濯をする必要はあるのだろうか。 ・きれいだから必要ない ・汗をかいたから必要だ	・目に見えるよごれのついた服、きれいな服、目に見えないよごれのついた服を比較させる。	T シャツ
洗濯は、どうして必要なのか考えよう。				
し っ か り 考 え る 30 分	2 衣服のよごれ方について話し合う。 3 2枚の布目の様子を比べる。  4 吸水実験をする。 	○衣服のどこにどのようなよごれがついているだろう。 ・汗 ・どろ ・脇 ◇一日着た T シャツと洗濯した T シャツを顕微鏡で見て比べてみよう。 ○違うところはどこだろう。 ・黒い ・何かつまっている ○布目の間によごれがつまっているとどうなるだろう。 ・風通しがわるい ・汗を吸わない ◇よごれた T シャツときれいな T シャツで、どのくらい吸水するかを比べよう。 ・きれいな布に比べて、よごれている布は、水を吸いにくい。	・衣服のよごれについて考えさせる。 * 一日着た T シャツの布目の様子を視覚的にとらえさせる。 * 実験の手順をわかりやすく提示する。	シート PC 実験 用具
ま と め る 8 分	5 まとめる。 	◇今日の学習でわかったことをまとめよう。 ・洗濯をしないと、よごれがとれず、汗を吸わなくなるから気持ちよく服を着ることができない。 ・通気性が悪く快適ではない。	【評価】 実験をふまえ、洗濯の必要性についてまとめている。	シート